
研究活動報告

第82回日本公衆衛生学会総会

2023年10月31日(火)～11月2日(木)の3日間、つくば国際会議場で、第82回日本公衆衛生学会総会が開催された。学会長は筑波大学 田宮菜奈子教授であり、疫学・保健医療情報から感染症、国際保健など、多くの分野にまたがる1,438の一般演題やシンポジウム、講演などが行われた。また、2日目の最後には、その日のために研鑽を積んだ学会員も参加して、ベートーベン交響曲第九番の特別演奏会も行われた。

筆者はこの学会は初参加であったが、「原死因・複合死因からみた日本における死因単純分類－ICD-11適用に向けて」と題する示説報告を行った。隣には高度認知症患者の死因に関する報告もあり、老衰死亡に関する議論も行われ、疾病・死亡に関わる多くの研究者と、有意義な研究交流を行うことができた。(林 玲子 記)

NCTS分野横断的二日間ワークショップ：人口ダイナミクスと関連トピックス

NCTS 分野横断的二日間ワークショップ：人口ダイナミクスと関連トピックス (2023 NCTS Interdisciplinary Two-Day Workshop: Population Dynamics and Related Topics) は、2023年11月13日から14日まで国立台湾大学で開催された、人口動態の数理モデリングと関連した応用数学に関する国際学術集会である。研究集会のタイトルにあるように、人口動態に関する研究が中心であるが、COVID-19などの影響もあり感染症の数理ややそれに関連した数学の話も多かった。数学者が殆どであったが、中には数学とは無縁の分子生物学者も講演しており、まさに学際的な様相を呈していた。著者は多地域レスリー行列モデルを用いて2020年の国勢調査のデータから、日本国内と国際移動が与える人口増加率への影響を数理的面からの分析結果を報告した。台湾は半導体景気が続いており、自然科学分野における学術会議などが活発に行われている印象を受けた。(大泉 嶺 記)

国連 ESCAP 第7回アジア太平洋人口会議

国連アジア太平洋人口会議は、1963年に第1回がインド・ニューデリーで開催されて以降、ほぼ10年ごとに第2回が日本・東京(1972年)、第3回がスリランカ・コロンボ(1982年)、第4回がインドネシア・バリ(1992年)で開催されてきた。第5回(2002年)以降はタイ・バンコク国連 ESCAP (アジア太平洋経済社会委員会) 会議場で開催されており、筆者は前回の第6回(2013年)に続き、2023年11月15日(水)から17日(金)にかけて開催された第7回会議に参加した。

前回までは、事前の準備会議と本会議がそれぞれバンコクにて対面で行われたが、今回の事前会合は、オンライン会議方式が浸透し、CSO(市民社会組織)を中心としたステークホルダー会議と称される、民間関係者の会議が4回程度頻繁に行われた。本会議は各国代表団、国際機関やCSOのステートメントが行われ、最初のスピーカーは日本の上川陽子外務大臣(ビデオメッセージ)であった。その後、a.人口変動と持続可能な開発および気候変動、b.性と生殖に関する健康を含む健康と生

殖に関する権利, c.格差と社会的排除および人権, d.パートナーシップと地域協力, という4つのテーマを軸に, パネルディカッションや質疑応答が行われた。前回のような大会宣言文書はなかったが, 座長報告が議論の末採択された。

会期中には, 昼食時間などを使って同じ会場で合計12のサイドイベントが行われた。サイドイベントは政府, 国際機関, CSO など様々な主催・共催により行われ, 本会議では取り上げられない, LGBTIQ+に関するものや, 中国の1994年カイロ国際人口開発会議からの人口動向に関するもの, アジア太平洋地域における人口登録と動態統計(CRVS)に関するものなど, 様々なテーマが取り上げられた。筆者はアジア人口学会が主催する「アジア太平洋地域人口の変化する現実: ポストコロナ時代の出生率の低下と高齢化」と題するサイドイベントを企画し司会を務めた。

ロシアによるウクライナ侵攻, ガザでの武力衝突が続く中, それらの関係国を含むこの会議では, 合意文書の作成が困難を極めたが, 少子高齢化, 格差, 気候変動といった課題はどの国においても共通に認識されていた。特に10年前の前回会議では, どの国も人口高齢化を訴えていたのに対し, 今回は高齢化はすでに当たり前であり, これから少子化が進むことに危機感を持っている国が多くあり印象的であった。

本会議に関する情報は, <https://www.unescap.org/events/2023/seventh-asian-and-pacific-population-conference> に掲載されている。(林 玲子 記)

グローバルヘルス合同大会2023

2023年11月24日(金)から26日(日)にかけて, 東京大学本郷キャンパスにて, 日本熱帯医学会, 日本国際保健医療学会, 日本渡航医学会, 国際臨床医学会の4学会合同でグローバルヘルス合同大会2023が開催された。合同企画セッションやシンポジウム・ワークショップなどが57セッション, 一般演題(口頭・ポスター)が191発表行われ, 総勢1,562名が参加し, 盛会であった。筆者は日本国際保健医療学会の大会長をつとめた。

4学会, グローバルヘルスの取り組みはそれぞれ微妙に異なるものの, 近年の日本における外国人の増加に伴い, 日本における医療の国際化は, いずれの学会においても関心が高い。最終日には特別合同企画として, 藤井輝夫東大総長と林芳正前外務大臣がプラネタリーヘルスについて講演・対談を行い, その後安田講堂に集った参加者と共にジョンレノンの「イマジン」を合唱した。

グローバルヘルス合同大会は, グローバルヘルスに関係する学会が集まり, 3年に1度開催されているが, 当初は日本国際保健医療学会と日本熱帯医学会の2学会であったものが, 2017年には日本渡航医学会を加え3学会, 2020年には国際臨床医学会が加わり4学会となり, 刻々と拡大してきている。今後「日本プラネタリーヘルス学会」などが設立されれば, さらに増えていくことであろう。グローバルヘルスは, 単なる「医療分野の援助」という枠を超え, 国境を超える保健人材や移動する人に対する医療, 国境を超える感染症や医療技術など, 幅広い領域を対象とするものとなっている。日本国際保健医療学会の次回大会は, 日本熱帯医学会と合同で2024年11月に沖縄・糸満市で開催される予定である。(林 玲子 記)

2023年人文地理学会大会

2023年人文地理学会大会が, 11月25日(土)から27日(月)にかけて, 法政大学市ヶ谷キャンパスを